本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。

CASIO

P

リストカメラ

2412*JA

取扱説明書

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願い申し上げます。

本機を安全に正しくお使いいただくための注意事項「安全上のご注意」を本誌に記載しています。本機をご使用になる前に、必ずお読みください。

なお、この説明書は大切に保存し、必要に応じてご覧ください。

本機のお取り扱いで、万一、誤ったキー操作を行なっても、製品に障害を与えることは一切ありません。本機の特長、機能を十分に使いこなしていただくためにも、ご納得のゆくまでお試しください。

Ir通信は、米国フェニックス テクノロジーズ社のプロトコルソフトを使用しています。
Compatibility Software Copyright (c) 1997
Phoenix Technologies Ltd., All Rights Reserved.

VCCIについて

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制評議会（ＶＣＣＩ）の基準に基づくクラスＢ情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

安全上のご注意

絵表示について

この注意書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、色々な絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。

⚠危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例


△記号は「気をつけるべきこと」（注意）を意味しています。（左の例は感電注意）


⃠記号は「してはいけないこと」（禁止）を意味しています。（左の例は分解禁止）


●記号は「しなければならないこと」（強制）を意味しています。（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）

⚠警告

ご使用にあたって

自動車、オートバイなどの運転をしながら撮影したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため周囲の交通や路面状況に十分ご注意ください。

防水性について

本機をスキューバダイビング（アクアラング）に使用しないでください。
※ 本機はダイバーズウオッチではありません。誤って使用すると、事故の原因となります。



電池の取り扱いについて

電池は扱い方を誤ると液漏れによる周囲の汚損や破裂による火災・ケガの原因となりますので、次のことは必ずお守りください。

- 極性（⊕と⊖の向き）に注意して正しく入れてください。
- 本機で指定されている電池以外は使用しないでください。

本機で使用しているボタン電池を取り外した場合は、誤ってボタン電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子様にご注意ください。

電池は小さなお子様の手の届かないところへ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

⚠注意

かぶれについて

時計の本体およびバンドは、直接肌に接触していますので、使用状態によってはかぶれを起こす恐れがあります。

① 金属・皮革に対するアレルギー
② 時計の本体およびバンドの汚れ・サビ・汗等
③ 体調不良等

- バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは余裕をもたせてご使用ください。
- 「抗菌バンド」は汗などによる細菌の繁殖を抑え、においの発生を防ぐもので、皮膚のかぶれを防ぐものではありません。
- 万一、異常が生じた場合は、ご使用を中止し、医師にご相談ください。

お手入れについて

ケース・バンドは汚れからサビが発生し、衣服の袖口を汚すことがあります。ケース・バンドは常に清潔にしてご使用ください。特に、海水に浸した後放置しておくとサビ易くなります。

分解しないでください

本機を分解しないでください。ケガをしたり、本機が故障する原因となることがあります。

⚠注意

使用禁止場所での撮影

航空機の中など、使用が制限されている場所では使用しないでください。事故の原因となることがあります。

ご使用にあたって

思わぬケガやアレルギーによるかぶれを防ぐため、就寝時は時計をはずすなど十分にご注意ください。

幼児を抱いたり、接したりする場合は、幼児のケガやアレルギーによるかぶれを防ぐため、時計をはずすなど十分にご注意ください。

時計着脱の際に、中留で爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。特に、長く伸ばした爪では、中留の操作はおやめください。

データ控えを作ってください

本機への物理的な損傷や事故などにより、撮影した内容が消失することがあります。本機で撮影した内容は、コンピュータに転送してバックアップとして保管することをお勧めします。

お使いになる前に

●オート・ディスプレイ・オフ機能

電力消費をおさえるためと、液晶画面の焼き付きをおさえるために、すべてのモードで以下のとき、自動的に表示を消す機能です。

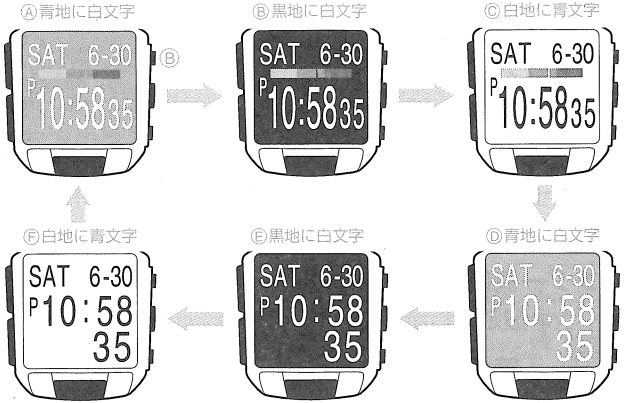
- 約60分間ボタン操作を行なわなかったとき。
- 約60分間時計を動かさなかったとき。

表示を点灯させるには、Ⓕボタンを押します。



●表示切り替え機能

時刻やカレンダーを表示するパターンは、色違い3つ、レイアウト違い2つの合計6パターンあります。
この表示パターンの切り替えは、時刻・カレンダーを表示しているモードでⒷボタンを押します。押すごとに以下の順で切り替わります。
※色のパターンは他のモードでも同じ色になります。



本書では、表示例に上記Ⓒ白地に青文字を使用しています。また、表示例を見やすくするために、ドット表示を使用しておりませんので、表示の大きさや表示位置が多少異なります。

目次

安全上のご注意 …… 1

お使いになる前に …… 5

操作のしくみ …… 8
- モード切り替え …… 10

撮影のしかた …… 12
- 撮影の基本操作 …… 12
- 画像を見る ～ビジュアルDBモード～ …… 15
- 画像を削除する …… 17
- メモを入力する …… 20
- 撮影のための調整 …… 23
- タイマー撮影 …… 25
- コントラスト設定 …… 27
- フォーマット …… 29

通信機能の使い方 …… 30
- 時計同士のデータ通信 …… 31
- 通信エラーについて …… 35

カレンダー機能の使い方 …… 37
- イベント設定のしかた …… 38

アラーム・時報の使い方 …… 40
- アラームのセット …… 40
- アラーム・時報のオン／オフ …… 43

ストップウオッチの使い方 …… 44
- 計測のしかた …… 44

時刻・カレンダーの合わせ方 …… 45
- 秒の合わせ方 ～30秒以内の遅れ／進みの修正～ … 45
- 時刻・カレンダーの合わせ方 …… 46

故障とお思いになる前に …… 48

製品仕様 …… 50

電源について …… 52
- 最初の電池 …… 52
- 電池の消耗 …… 52
- 電池交換のご注意 …… 53
- 電池交換のしかた …… 54

ご使用上の注意 …… 56

お手入れについて …… 57

操作のしくみ

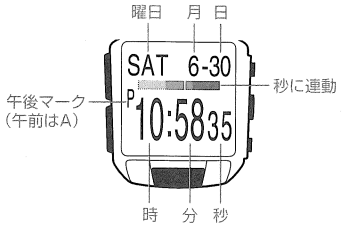
時刻モードまたは他のモード（通信モードを除く）でⒻボタンを約0.1秒間押すと、撮影モードに切り替わります。

時刻モード



Ⓐ ボタン：約１秒間押し続けると時刻セットに切り替わります。
Ⓑ ボタン：表示パターンが切り替わります。
Ⓒ ボタン：カレンダーモードに切り替わります。
Ⓓ ボタン：各種機能モードに切り替わります。
Ⓔ ボタン：12時間制表示と24時間制表示が切り替わります。
Ⓕ ボタン：約0.1秒間押すと、撮影モードに切り替わります。

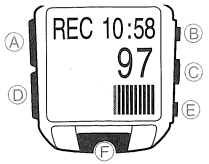
●表示の見方



撮影した画像を見たり、アラームのセット、ストップウオッチを使うモードへの切り替え方は10ページをご覧ください。

撮影モード

P-12



Ⓐ ボタン：撮影タイマーなどの設定に切り替わります。
Ⓑ ボタン：撮影場所の設定切り替えができます。（戻し）
Ⓒ ボタン：標準と２倍デジタルズームが切り替わります。
Ⓓ ボタン：ビジュアルDBモードに切り替わります。
Ⓔ ボタン：撮影場所の設定切り替えができます。（送り）
Ⓕ ボタン：シャッターがきれます。
※撮影モードで約1分経過すると自動的にビジュアルDBモードに替わります。

カレンダーモード

P-37



Ⓐ ボタン：約１秒間押し続けるとイベントセットに切り替わります。
Ⓑ ボタン：１ヵ月戻ります。（戻し）
Ⓒ ボタン：時刻モードの表示に戻ります。
Ⓓ ボタン：ビジュアルDBモードに切り替わります。
Ⓔ ボタン：１ヵ月進みます。（送り）
Ⓕ ボタン：約0.1秒間押すと、撮影モードに切り替わります。
※何もボタン操作をしないと、約１分後時刻モードに戻ります。

■モード切り替え

Ⓓ ボタンを押すごとに以下の順でモードが切り替わります。

時刻モード



※ストップウオッチモード以外で何もボタン操作をしないと、約１分後自動的に時刻モードに戻ります。
※各モードで操作を行なった後に Ⓓ ボタンを押すと、直接時刻モードに戻ります。

Ⓓ

ストップウオッチモード

P-44

モードマーク



Ⓑ ボタン：スプリット／リセット
Ⓓ ボタン：時刻モードへ
Ⓔ ボタン：スタート／ストップ
Ⓕ ボタン：約 0.1 秒間押すと撮影モードへ

ビジュアル DB モード

P-15

Ⓓ

モードマーク



Ⓐ ボタン：約１秒間押し続けるとセットメニューへ
Ⓑ ボタン：画像選択（戻し）
Ⓒ ボタン：表示切り替え
Ⓓ ボタン：通信モードへ
Ⓔ ボタン：画像選択（送り）
Ⓕ ボタン：約 0.1 秒間押すと撮影モードへ

Ⓓ

通信モード

P-30

モードマーク



Ⓑ ボタン：通信相手選択（戻し）
Ⓓ ボタン：アラームモードへ
Ⓔ ボタン：通信相手選択（送り）
Ⓕ ボタン：選択項目の決定

Ⓓ

アラームモード

P-40

Ⓓ

モードマーク



Ⓐ ボタン：約1秒間押し続けるとアラーム時刻セット
Ⓑ ボタン：アラーム・時報選択（戻し）
Ⓒ ボタン：オン／オフ(押し続けるとデモアラーム)
Ⓓ ボタン：ストップウオッチモードへ
Ⓔ ボタン：アラーム・時報選択（送り）
Ⓕ ボタン：約 0.1 秒間押すと撮影モードへ
※モードマークは「ALM1」~「ALM5」、「SIG」があります。

撮影のしかた

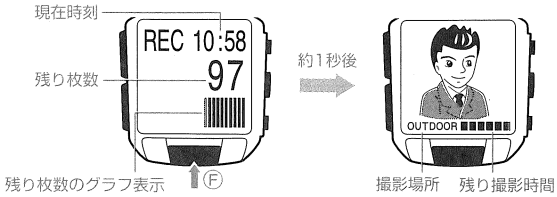
■撮影の基本操作

1. 撮影モードに切り替える

通信モード以外のときにⒻボタンを約0.1秒間押します。

➡残り枚数を約1秒間表示後、被写体が写ります。

※残り枚数が0またはメモリー容量が足りない場合は、「MEMORY FULL」と表示されて撮影画像が保存できません。このようなときは、不要な画像を削除してから撮影してください。



※撮影場所：撮影場所を選んで、周囲の明るさを設定します。(23ページ参照)

※残り撮影時間：撮影モードでの残り撮影時間をグラフが青から赤に切り替わることで表示します。

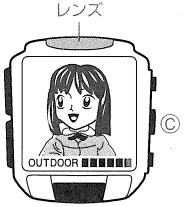
2. 被写体にレンズを向ける

時計上部にあるレンズを被写体に向けます。

➡表示を見ながら調整してください。

〈2倍デジタルズーム〉

Ⓒボタンを押すごとに、通常撮影と2倍デジタルズーム撮影が切り替わります。

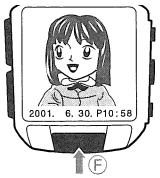


3. 撮影する

Ⓕボタン（シャッター）を押します。

➡撮影した画像をメモリーし、約3～4秒間撮影した画像と撮影日時を表示します。

※撮影画像表示中のボタン操作はできません。



●撮影上のご注意

- レンズを指でふさがないようにご注意ください。
- 手ぶれをおこさないように、Ⓕボタン（シャッター）は静かに押してください。
- 暗い場所では写りが悪くなることがありますので、日中はなるべく屋外で、夜間はなるべく照明の明るい屋内で撮影することをお勧めします。
- 撮影モードに切り替えた直後はCMOSセンサーの自動調整を行なっています。その自動調整中に撮影した画像にノイズが入ってしまう可能性がありますので、映し出される表示の明るさなどが安定してから撮影してください。

●画像の並び替え順

メモが入力されているときは、メモの先頭から比較して自動的に並び替えられます。並び替えられる順はアルファベット➡数字➡記号の順です。

メモが入力されていないときは、メモ付の画像の後に撮影日時順に並び替えられます。

※通信で送られてきた画像はソートされない場合があります。

●撮影枚数について

撮影可能枚数は100枚ですが、撮影画像の容量により撮影カウントが飛んだり、撮影枚数が100枚にならないことがあります。

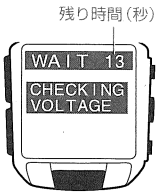
●撮影時間

撮影モードでの撮影時間は約1分間で、その後は自動的にビジュアルDBモードに切り替わります。

●撮影インターバル

撮影モードから他のモードに切り替えたあとは、電池電圧の安定保持のため、撮影モードにしていた時間（最大60秒）と同じ時間だけ撮影休止状態となり、撮影モードに切り替えられません。

※休止時間は通常最大60秒ですが、タイマー撮影により最大70秒になることもあります。
例）撮影モードでの時間＝20秒➡休止時間＝20秒



撮影休止中に撮影モードに切り替えようとすると、「WAIT」表示と共に残り時間を表示します。

●画像サイズについて

撮影時およびビジュアルDBモードで表示される画像は78×72ドット（撮影日時を含むと78×80ドット）ですが、実際にメモリーされている画像は176×144ドット（176×144pixels）ですので、パソコンやその他の機器にデータを転送した場合は、176×144ドットで表示されます。

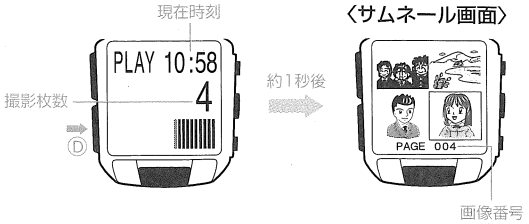
★撮影モード、カレンダーセットモード、ビジュアルDBセットモード、通信モードではアラーム・時報の電子音は鳴りません。

■画像を見る ～ビジュアルDBモード～

1. ビジュアルDBモードに切り替える

撮影モードおよび時刻モードのときにⒹボタンを押します。

➡撮影枚数を約1秒間表示後、前回最後に見た画像または撮影した直後の画像を含む4画像のサムネール画面になります。



2. 画像を選ぶ

Ⓔボタンまたは Ⓑ ボタンを押します。

➡Ⓔボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

※押し続けると早送りができます。

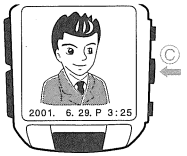
※選択画像表示とメモ表示でも、同様にして選ぶことができます。



3. 選択画像表示に切り替える

Ⓒボタンを押します。

➡選択画像が大きく表示されます。

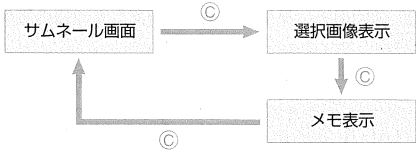


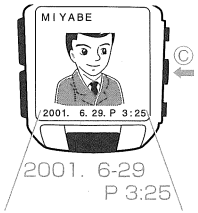
画像が鮮明に表示されるまで1～4秒間かかります。

4. メモ表示に切り替える

Ⓒ ボタンを押します。

➠押すごとに以下の順に表示が切り替わります。



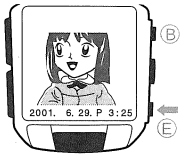


5. 画像を選ぶ

Ⓔ ボタンまたは Ⓑ ボタンを押します。

➠メモ表示でも Ⓔ ボタンを押すごとに 1 つずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。

※押し続けると早送りができます。



6. 時刻モードに戻す

Ⓓ ボタンを押します。

※ビジュアル DB モードで何もボタン操作をしないと、約 1 分後時刻モードに戻ります。

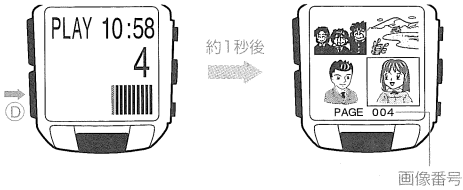


■ 画像を削除する

1. ビジュアル DB モードに切り替える

時刻モードのときに Ⓓ ボタンを 1 回押します。

➠撮影枚数を約 1 秒間表示後、前回最後に見た画像または撮影した直後の画像を含む 4 画像のサムネール画面になります。



2. 画像を選ぶ

Ⓔ ボタンまたは Ⓑ ボタンを押します。

➠Ⓔ ボタンを押すごとに 1 つずつ進み、Ⓑ ボタンを押すごとに戻ります。

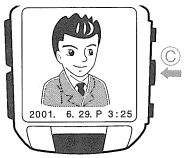
※押し続けると早送りができます。



3. 選択画像表示に切り替える

Ⓒ ボタンを押します。

➠選択画像が大きく表示されます。



4. セットメニューを開く

Ⓐ ボタンを約 1 秒間押し続けます。

※「DELETE」は削除、「NAME」はメモ入力へ、「CONTRAST」はコントラスト設定へ、「FORMAT」はフォーマットへ進みます。

※サムネール画面、選択画像表示、メモ表示のいずれかの表示のときにⒶボタンを約 1 秒間押し続けるとセットメニューが表示されます。



5. 削除メニューを開く

Ⓕ ボタンを押します。

※「PAGE」は選択画像のみの削除へ、「ALL」は全画像削除へ進み、「CANCEL」は前画面に戻ります。

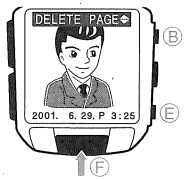


6. 削除方法を選ぶ

ⒺボタンまたはⒷボタンを押して「PAGE」または「ALL」を選んでから、Ⓕボタンを押します。

〈PAGE削除の場合のみ〉

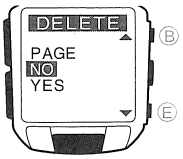
「PAGE」削除の場合のみ、確認画像が表示されます。このときも、Ⓔ ボタンまたは Ⓑ ボタンを押して、削除画像を選ぶことができます。
表示されている画像を削除するときは、Ⓕ ボタンを押します。



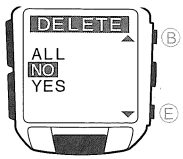
7. 削除確認をする

Ⓔ ボタンまたは Ⓑ ボタンを押して「YES」または「NO」を選びます。

〈選択画像削除〉



〈全画像削除〉



8. 削除する

「YES」を選んでから Ⓕ ボタンを押します。

➡「WAIT DELETE」表示後、全画像の場合はセットメニュー表示となります。



例）選択画像のみの場合

- 途中で削除をやめるときは、Ⓐ ボタンを押します。
  ※「WAIT DELETE」中は中止できません。
- 削除する画像の容量によっては、枚数のカウンターが変わらないことがことがあります。
- 時刻モードに戻すには、Ⓓ ボタンを押します。
- 画像削除状態で何もボタン操作をしないと、約 1 分後ビジュアル DB モードに戻ります。

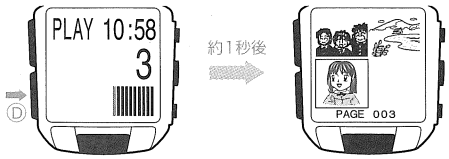
■ メモを入力する

撮影した画像に、アルファベット、数字、記号などのメモ（24文字以内）を付けることができます。

1. ビジュアルDBモードに切り替える

時刻モードのときにⒹボタンを1回押します。

➠撮影枚数を約1秒間表示後、前回最後に見た画像または撮影した直後の画像を含む4画像のサムネール画面になります。

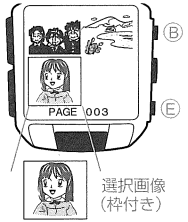


2. 画像を選ぶ

Ⓔボタンまたは Ⓑボタンを押します。

➠Ⓔボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

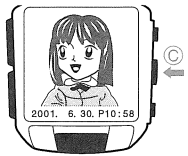
※押し続けると早送りができます。



3. 選択画像表示に切り替える

Ⓒボタンを押します。

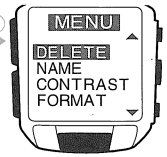
➠選択画像が大きく表示されます。



4. セットメニューを開く

Ⓐボタンを約1秒間押し続けます。

※「DELETE」は削除、「NAME」はメモ入力へ、「CONTRAST」はコントラスト設定へ、「FORMAT」はフォーマットへ進みます。

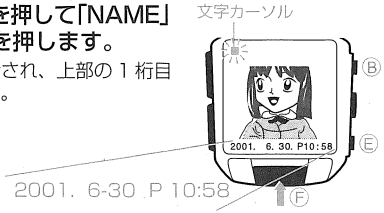


5. 「NAME」を選ぶ

ⒺボタンまたはⒷボタンを押して「NAME」を選んでから、Ⓕボタンを押します。

➠表示窓下部に撮影日時が表示され、上部の1桁目で文字カーソルが点滅します。

※点滅箇所に入力できます。

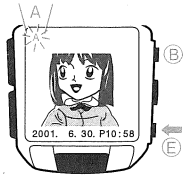


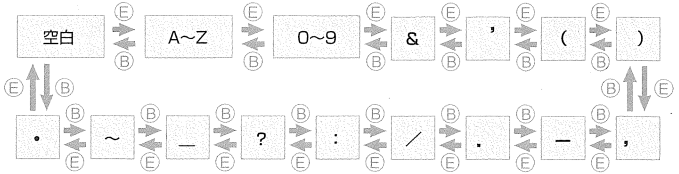
6. 文字を入力する

Ⓔボタンまたは Ⓑボタンを押します。

➠Ⓔボタンを押すごとに以下の順に1つずつ進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

※押し続けると早送りができます。





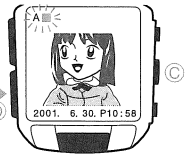
7. 入力箇所を進める

Ⓓ ボタンを押します。

➡点滅箇所（入力箇所）が次の桁に進みます。

※Ⓓ ボタンは押し続けると早送りができます。

※Ⓒ ボタンを押すごとに、入力文字がアルファベット、数字、記号の順に切り替わります。

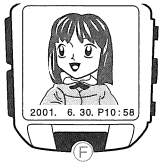


Ⓓ ボタンを押して点滅箇所を移動させ、Ⓔ または Ⓑ ボタンを押して入力する操作を繰り返して名前や電話番号等を入力します。

8. セットを終わる

Ⓐ ボタンまたは Ⓕ ボタンを押します。

➡「WAIT NOW SORTING」表示後、画像表示に戻ります。



※メモの入力状態で表示を点滅させたまま約1分すると、自動的に点滅が止まります。

■撮影のための調整

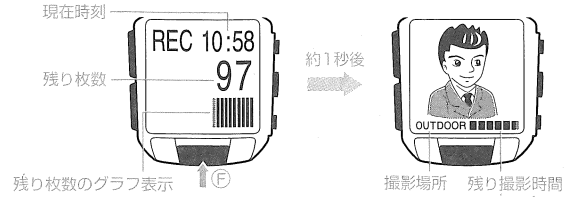
●撮影場所の設定（明るさ設定）

屋外や屋内などの撮影する場所を選んで、周囲の明るさを設定します。

1. 撮影モードに切り替える

通信モード以外のときに Ⓕ ボタンを約 0.1 秒間押します。

➡残り枚数を約 1 秒間表示後、被写体が写ります。

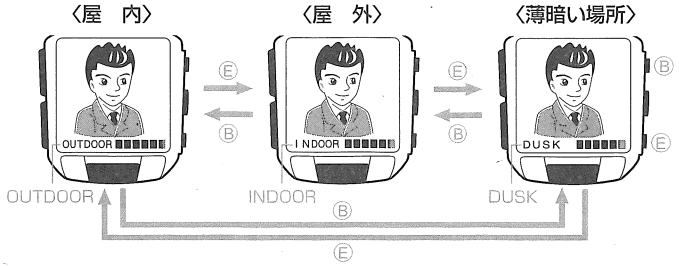


2. 撮影場所を切り替える

Ⓔ ボタンまたは Ⓑ ボタンを押します。

➡押すごとに以下の順に切り替わります。

※「OUTDOOR」は屋外、「INDOOR」は屋内、「DUSK」は薄暗い場所（夕暮れ）です。



- 一度切り替えた設定は、その撮影モードでのみ有効です。他のモードに切り替えてから撮影モードに戻したときは、最初の屋外に戻ります。

※「DUSK」に切り替えたときは、画面の切り替えが多少遅くなります。

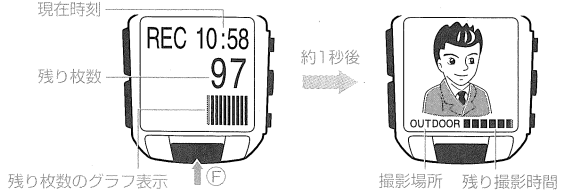
●画像の明るさ切り替え

画像の明るさ（ブライトネス）は自動的に調整されますが、逆光での撮影や背景が暗い場合の撮影時など、15段階で補正することができます。

1. 撮影モードに切り替える

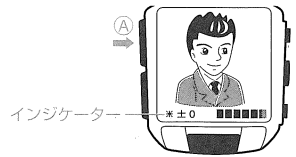
通信モード以外のときにⒻボタンを約0.1秒間押します。

➠残り枚数を約1秒間表示後、被写体が写ります。



2. 明るさ切り替えにする

Ⓐボタンを2回押します。



3. 明るさを切り替える

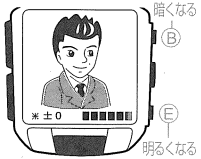
ⒺボタンまたはⒷボタンを押します。

➠Ⓔボタンを押すごとに明るくなり、Ⓑボタンを押すごとに暗くなります。

※調整は－7～±0～＋7の間でできます。

※初期状態は15段階中の8段階（±0）です。

※ボタンを押してから明るさが切り替わるまで、少し時間がかかります。



- 一度切り替えた設定は、その撮影モードでのみ有効です。撮影場所の切り替えを行なったときや他のモードに切り替えてから撮影モードに戻したときは、自動調整に戻ります。

明るすぎたり、暗すぎたりする環境では、対応できない場合があります。

■タイマー撮影

タイマーは2秒、5秒、10秒が選べます。

1. 撮影モードに切り替える

通信モード以外のときにⒻボタンを約0.1秒間押します。

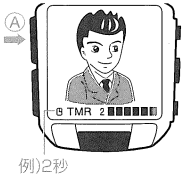
➠残り枚数を約1秒間表示後、被写体が写ります。



2. タイマー時間設定にする

Ⓐボタンを押します。

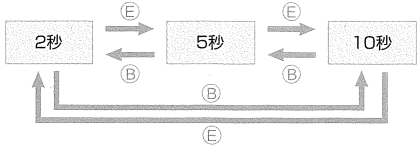
➠最初は2秒に設定されます。

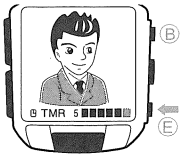


3. タイマー時間を設定する

ⒺボタンまたはⒷボタンを押します。

➠押すごとに以下の順に切り替わります。





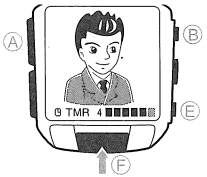
4. 撮影する

Ⓕ ボタン（シャッター）を押します。

➡ 設定した時間後に撮影されます。

※カウントダウン中に中止するにはⒶ・Ⓑ・Ⓔボタンのいずれかを押します。タイマーがリセットされます。

※カウントダウン中にⒻボタンを押すと、すぐに撮影されます。



■コントラスト設定

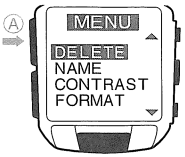
画像のコントラスト設定は、ビジュアルDBモードで行ないます。
画像用のコントラストは１～１５段階で設定できます。

※撮影した画像のコントラストは、通常のコントラスト設定（46ページ）とは別に行ないます。

1. セットメニューを開く

ビジュアルDBモードでⒶボタンを約１秒間押し続けます。

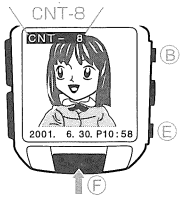
※「DELETE」は削除、「NAME」はメモ入力へ、「CONTRAST」はコントラスト設定へ、「FORMAT」はフォーマットへ進みます。



2. 「CONTRAST」を選ぶ

Ⓔボタンまたは Ⓑ ボタンを押して「CONTRAST」を選んでから、Ⓕボタンを押します。

➡ コントラストの設定値が表示されます。

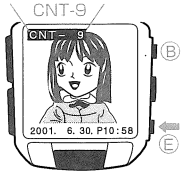


3. 設定する

Ⓔボタンまたは Ⓑ ボタンを押します。

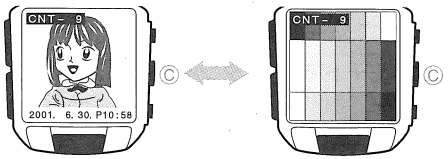
➡ Ⓔボタンを押すごとに１つずつ進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

※１～１５の間で設定できます。



コントラスト画面切り替え

コントラスト設定状態のときにⓒボタンを押すと、押すごとに画像表示とカラーチャート表示が切り替わります。
なお、撮影枚数が０のときは、カラーチャートのみを表示します。
※このとき表示される画像は、前回最後に見た画像となります。

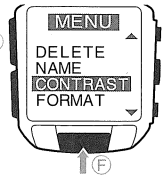


4. 設定を終わる

Ⓕボタンを押します。

➡設定値が消え、セットメニュー表示に戻ります。

※Ⓐボタンを押すか約１分間何もしないと、自動的にビジュアルDBモードに戻ります。



■フォーマット

メモリーエラーなど、メモリー画像に異常があった場合には、以下の方法でフォーマット（初期化）を何度か行なってください。

このフォーマットを行ないますと、メモリーされている画像がすべてクリアーされますので、ご注意ください。

1. セットメニューを開く

ビジュアルDBモードでⒶボタンを約１秒間押し続けます。

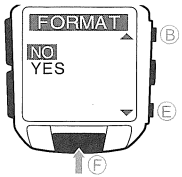
※「DELETE」は削除、「NAME」はメモ入力へ、「CONTRAST」はコントラスト設定へ、「FORMAT」はフォーマットへ進みます。



2. 「FORMAT」を選ぶ

ⒺボタンまたはⒷボタンを押して「FORMAT」を選んでから、Ⓕボタンを押します。

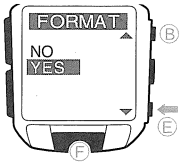
➡フォーマット確認が表示されます。



3. フォーマットする

ⒺボタンまたはⒷボタンを押して「YES」を選んでから、Ⓕボタンを押します。

➡「WAIT FORMAT」表示後、セットメニュー表示となります。



- 途中でフォーマットをやめるときは、Ⓐボタンを押します。
  ※「WAIT FORMAT」中は中止できません。

通信機能の使い方

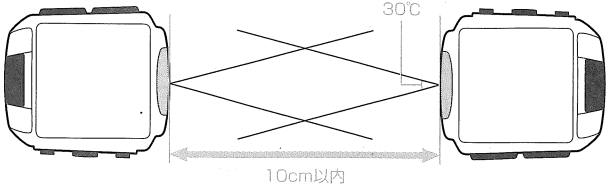
通信機能は時計同士で画像データを交換したり、パソコンやその他の機器と画像データをやりとりする機能です。
なお、データ通信を行なうには、赤外線通信ポートがある機器か、赤外線アダプターをお使いください。
ここでは、時計同士の通信について説明しますが、パソコンとのデータ通信のしかたは、付属のCD-ROMに納められている説明書または赤外線アダプターに付属の説明書をご覧ください。

通信モードに切り替えるには

時刻モードのときにⒹボタンを２回押します。
※通信モードで何もボタン操作をしないと、約１分後時刻モードに戻ります。

●時計同士を合わせる

時計同士で通信するときは、以下のことにご注意ください。



- 通信できる距離は最大約 10cm で、角度は最大約 30 度です。
  ※通信距離が近すぎても、うまく通信できないことがあります。
- 通信角度が 15 度以上あるときは、通信距離が極端に短くなります。

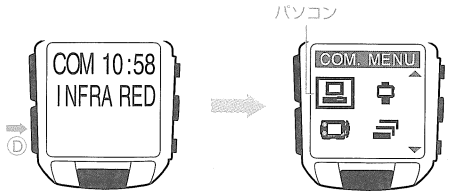
■時計同士のデータ通信

●受信側の操作

1. 通信モードに切り替える

時刻モードのときにⒹボタンを２回押します。

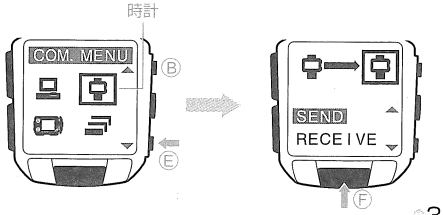
➡モード表示を約１秒間表示後、通信メニューが表示されます。
※通信メニューアイコンは、左上から右下の順に、パソコン・時計・携帯ゲーム機・その他（PDA など）を表わします。
※本機はWQV-3シリーズとの通信も可能です。そのときの通信メニューは時計を選んでください。
※本機は WQV-1 シリーズおよび WQV-2 とは通信できません。



2. 時計同士のモードに切り替える

ⒺボタンまたはⒷボタンを押して時計を選び、Ⓕボタンを押します。

➡時計同士の送信／受信メニューになります。

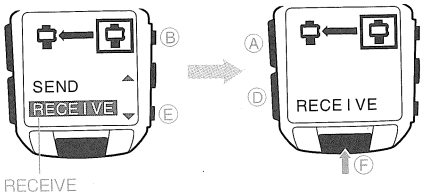


3. 受信を選ぶ

Ⓔ ボタンまたは Ⓑ ボタンを押して「RECEIVE」（受信）を選び、Ⓕ ボタンを押します。

➡受信待機状態になります。

※通信を途中でやめるときは Ⓐ ボタンを押します。
また、Ⓓ ボタンを押すと直接時刻モードに戻ります。



受信が成功すると、受信画像を約 1 秒間表示し、送信／受信メニューに戻ります。



●送信側の操作

1. 通信モードに切り替える

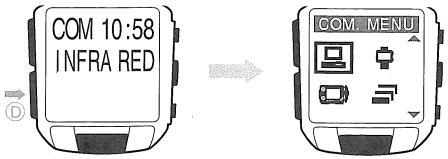
時刻モードのときに Ⓓ ボタンを 2 回押します。

➡モード表示を約 1 秒間表示後、通信メニューが表示されます。

※通信メニューアイコンは、左上から右下の順に、パソコン・時計・携帯ゲーム機・その他（PDA など）を表わします。

※本機はWQV-3シリーズとの通信も可能です。そのときの通信メニューは時計を選んでください。

※本機は WQV-1 シリーズおよび WQV-2 とは通信できません。

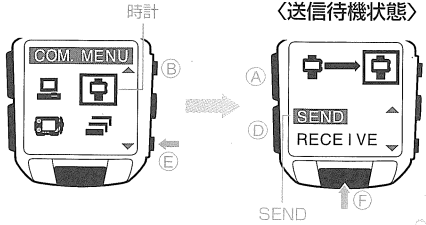


2. 時計同士のモードに切り替える

Ⓔ ボタンまたは Ⓑ ボタンを押して時計を選び、Ⓕ ボタンを押します。

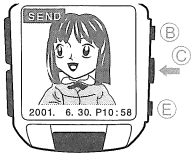
➡時計同士の送信／受信メニューになります。
このまま「SEND」（送信）が反転表示されている状態が、送信待機状態です。

※通信を途中でやめるときは Ⓐ ボタンを押します。
また、Ⓓ ボタンを押すと直接時刻モードに戻ります。



3. 送信画像を選ぶ

Ⓒボタンを押して画像表示に切り替え、Ⓔまたは Ⓑ ボタンを押して、送信したい画像を選びます。



➡モード表示を約 1 秒間表示後、通信メニューが表示されます。

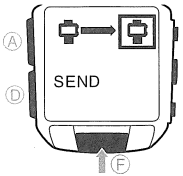
※Ⓒ ボタンを押すごとに、画像表示と送信待機状態が切り替わります。

※Ⓔ·Ⓑボタンは押し続けると早送りができます。

※画像表示でボタン操作をしないと、約 5 秒後自動的に送信待機状態に戻ります。

4. 送信する

時計同士を向け合い、Ⓕボタンを押します。



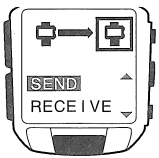
➡相手の時計と同調すると、通信が開始されます。

※通信を途中でやめるときはⒶボタンを押します。また、Ⓓ ボタンを押すと直接時刻モードに戻ります。

送信が成功すると、送信／受信メニューに戻ります。



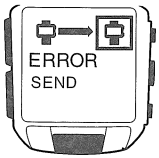
〈送信／受信メニュー〉



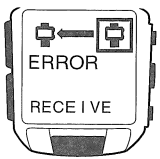
通信エラーについて

●何らかの原因で送信または受信が失敗しました。
もう一度最初からやり直してください。

〈送信側〉



〈受信側〉

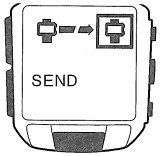


●受信側のメモリー枚数（容量）がいっぱいです。
不要なデータを削除してからやり直してください。

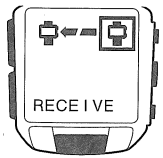


●通信が途中で遮断されました。
原因を確かめて正常に通信できるようにしてください。
※約 25 秒以内に回復しない場合は“ERROR”表示になります。

〈送信側〉



〈受信側〉



●その他の注意表示について

REC ERROR

☞画像の取り込みに失敗しました。

CHECKING DATA

☞データを受信した後に、画像処理をしているとき表示します。

通信中のご注意

- 通信できる距離は最大約 10cm で、角度は最大約 30 度です。
- 通信距離が近すぎても、うまく通信できないことがあります。
- 通信角度が 15 度以上あるときは、通信距離が極端に短くなります。
- 通信中は時計を動かさないでください。
- 通信中は時計同士の間を遮らないようにしてください。
- 屋外などの明るい場所や窓際では通信できないことがあります。
  また、インバータ蛍光灯などの強い光源がある場合は、インバータ蛍光灯等を消してご使用いただくか、光が直接赤外線通信部に当たらないようにしてください。
- 通信している近くで別の赤外線通信が行なわれているときは、通信できないことがあります。
- 電池が消耗してくると通信距離が短くなります。
- 送信時の画像選択画面や受信時の待機状態では、約5分後自動的に通信を終了します。
  ただし、通信中に約５分経過した場合はその通信後に終了します。

カレンダー機能の使い方

カレンダー機能は１カ月単位のカレンダーに、休日等のマークを付けて表示する機能です。

カレンダーモードに切り替えるには

時刻モードのときに Ⓒ ボタンを押します。

●表示の見方

カレンダーモードに切り替えると、当日が点滅表示されます。
なお、時刻モードの表示に戻すには、もう一度 Ⓒ ボタンを押します。



- あらかじめ、日曜日が「赤地に白文字」、土曜日が「青地に白文字」になっています。
- 設定してあるその日の色に合わせて、時刻モードの曜日も色が替わります。

●月のサーチ

カレンダーモードでⒺボタンを押すごとに１カ月ずつ進み、Ⓑボタンを押すごとに１カ月ずつ戻ります。

※Ⓔ・Ⓑ ボタンとも、押し続けると早送りができます。



■イベント設定のしかた

イベント設定は時計上でもできますが、付属のリンクソフトを使用してパソコン上で設定した方が便利です。

※パソコン上での設定のしかたは、付属のCD-ROMに納められている説明書をご覧ください。

1. イベント設定状態に切り替える

カレンダーモードでⒶボタンを約1秒間押し続けます。

➡1日が早く点滅します。



2. 設定したい日を点滅させる

Ⓔボタンまたは Ⓑ ボタンを押します。

➡Ⓔボタンを押すごとに1日ずつ進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

※Ⓔ・Ⓑボタンとも、押し続けると早送りができます。



3. イベントを設定する

Ⓒボタンを押します。

➡押すごとに「青地に白文字」➡「赤地に白文字」➡「緑地に白文字」➡「黒文字」…と切り替わります。

※点滅箇所がセット可能です。



Ⓔボタンまたは Ⓑ ボタンを押して設定したい日を選び、Ⓒボタンを押して設定する操作を繰り返します。

4. セットを終わる

Ⓐボタンを押します。

➡カレンダーを表示します。



※セット状態で表示を点滅させたまま約1分すると、自動的に点滅が止まります。

★カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーで、2000年1月～2039年12月まで表示します。

アラーム・時報の使い方

アラームは1分単位でセットでき、セット時刻になると20秒間の電子音で知らせてくれます。アラームは5本あり、いずれも同じ使い方ができます。
また、毎正時（00分）に電子音で時報を鳴らすこともできます。
※撮影モードおよび通信モード、カレンダーおよびビジュアルDBのセット状態（表示が点滅中）ではアラーム・時報の電子音は鳴りません。

アラームモードに切り替えるには

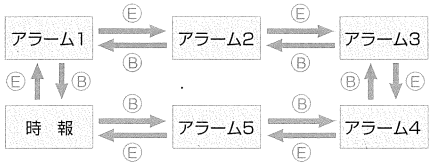
時刻モードのときにⒹボタンを3回押します。

■アラームのセット

1. アラームを選ぶ

Ⓔボタンまたは Ⓑ ボタンを押します。

➡押すごとに以下の順に切り替わります。





2. セット状態にする

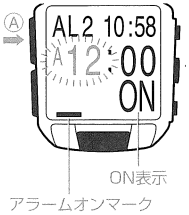
Ⓐ ボタンを約 1 秒間押し続けます。

➡時が点滅します。

※自動的にアラームがオンとなり、アラームオンマークが点灯します。

※アラームオンマークは 1 ～ 5 のいずれかのアラームがオンのとき点灯します。

※"ON" 表示は選ばれているアラーム番号がオンのとき表示されます。



3. 時をセットする

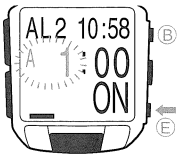
Ⓔボタンまたは Ⓑ ボタンを押します。

➡Ⓔボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

※押し続けると早送りができます。

※午前(A)／午後(P)にご注意ください。

※時刻モードの現在時刻を 24 時間制表示にしているときは、アラームのセット時刻も24時間制表示になります。



4. 分のセットに切り替える

Ⓓ ボタンを押します。

➡分が点滅します。

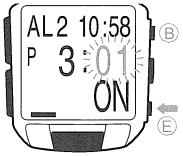


5. 分をセットする

Ⓔボタンまたは Ⓑ ボタンを押します。

➡Ⓔボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。

※押し続けると早送りができます。



6. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します。
➡アラームモードの表示に戻ります。

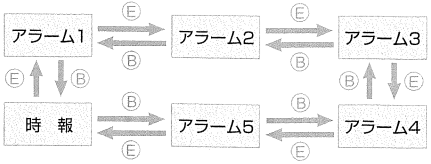


※セット状態で表示を点滅させたまま約１分すると、自動的に点滅が止まります。

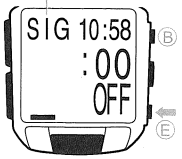
■アラーム・時報のオン／オフ

1. アラームまたは時報を選ぶ

Ⓔ ボタンまたは Ⓑ ボタンを押します。
➡押すごとに以下の順に切り替わります。



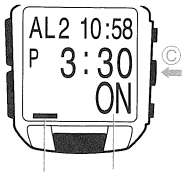
時報マーク



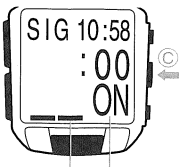
2. オン／オフを切り替える

Ⓒ ボタンを押します。
➡押すごとに、アラームまたは時報のオン／オフが切り替わります。

〈アラーム〉



〈時 報〉



※アラームオンマークは1～5のいずれかのアラームがオンのとき点灯します。
※"ON"表示は選ばれているアラーム番号または時報がオンのとき表示されます。

●鳴っているアラームを止めるには

いずれかのボタンを押します。

●デモアラーム

アラームモードで Ⓒ ボタンを押し続けると、押している間電子音が聞けます。

ストップウオッチの使い方

ストップウオッチは1/10秒単位で23時間59分59秒9（24時間計）まで計測でき、以後、自動的に0に戻って計測を続けます。

ストップウオッチモードに切り替えるには

時刻モードのときにⒹボタンを4回押します。

■計測のしかた

- Ⓔボタンを押すごとに計測がスタート／ストップします。
- 計測がストップしているときにⒷボタンを押すと、0時間00分00秒0（リセット表示）になります。
- 計測中にⒷボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続けるスプリットタイム（途中経過時間）計測となります。



●通常の計測

Ⓔ スタート → Ⓔ ストップ → Ⓑ リセット

積算計測…

ロスタイムのある場合は、ストップ後リセットせずにⒺボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測をはじめます。

●スプリットタイム計測

Ⓔ スタート → Ⓑ スプリット計測 → Ⓑ スプリット解除 → Ⓔ ストップ → Ⓑ リセット

●1着・2着同時計測

Ⓔ スタート → Ⓑ 1着ゴール（1着タイム表示） → Ⓔ 2着ゴール → Ⓑ 2着タイム表示 → Ⓑ リセット

計測中にⒹボタンを押してモードを切り替えても計測は続いています。

時刻・カレンダーの合わせ方

■秒の合わせ方 ～30秒以内の遅れ／進みの修正～

月に1度くらいこの「秒合わせ」を行なっていただくと、時計はいつも正確です。

1. 時刻セット状態に切り替える

時刻モードでⒶボタンを約1秒間押し続けます。

➡秒が点滅します。



2. 秒を合わせる

時報に合わせてⒺボタンを押します。

➡秒が00～29秒のときは切り捨てられ、30～59秒のときは1分繰り上がって「00秒」になります。

※時報は「時報サービス　電話117番」が便利です。



3. セットを終わる

Ⓐボタンを押します。

➡点滅が止まります。



※秒合わせで表示を点滅させたまま約1分すると、自動的に点滅が止まります。

■時刻・カレンダーの合わせ方

電池交換後などで時刻･カレンダーが合っていない場合は､以下の方法で合わせてください。

※時刻・カレンダーの設定は時計上でもできますが、付属のリンクソフトを使用してパソコン上でも設定できます。
なお、パソコン上での設定のしかたは、付属のCD-ROMに納められている説明書をご覧ください。

1. 時刻セット状態に切り替える

時刻モードでⒶボタンを約1秒間押し続けます。

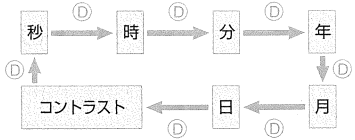
➡秒が点滅します。



2. セット箇所を切り替える

Ⓓボタンを押します。

➡押すごとに点滅箇所が以下の順に移動します。
※点滅箇所がセット可能です。





3. セットする

Ⓔボタンまたは Ⓑ ボタンを押します。



Ⓓボタンを押してセットしたい箇所を点滅させ、Ⓔボタンまたは Ⓑ ボタンを押してセットする操作を繰り返します。

- Ⓔボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓑボタンを押すごとに戻ります。
  ※押し続けると早送りができます。
  ※時のセットのとき、午前(A)／午後(P)および24時間制表示にご注意ください。
  ※年は西暦で2000～2039年までセットできます。
  ※曜日は年月日を合わせると自動的にセットできます。
  ※コントラストは画像以外の表示用で、1～9の間で設定できます。

4. セットを終わる

Ⓐボタンを押します。

➡点滅が止まります。



※セット状態で表示を点滅させたまま約1分すると、自動的に点滅が止まります。

★カレンダーはうるう年および大の月､小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので､電池交換時以外は修正不要です。

★時刻モードでⒺボタンを押すごとに、12時間制表示と24時間制表示が切り替わります。

故障とお思いになる前に

Q１：表示が消えていることがあります。

A１：オート・ディスプレイ・オフ機能によるものです。本機は電力消費と液晶画面の焼き付きの２つをおさえるために、60分以上本体を動かさなかった場合（ただし、その間にボタン操作があった場合はその時点から60分後）は、本機を腕に装着していないと判断し、それを検知するセンサーによって自動的に表示を消す機能がついています。この機能を解除するには、Ⓕボタン（フロントボタン）を押します。

Q２：シャッターボタンを押しても撮影モードになりません。

A２：電池マークが点滅または点灯していませんか？
電池マークが上記状態のときには、電池容量が少なくなっていることを示しています。この状態では、画像メモリーを保護するために撮影モードに切り替わらなくなります。

Q３：アラームを設定したのに鳴りません。

A３：以下の状態のときには、メモリーデータ保護のためアラーム・時報は鳴りません。
1）撮影モード　2）通信モード　3）ビジュアルDBセットモード
4）一括カレンダーセットモード　5）電池マーク点灯状態

Q４：電池マークの点滅と点灯の違いは何ですか？

A４：電池マークの点滅は、電池の電圧が一時的に低下した状態を表わし、電池容量が使用範囲以下の可能性があることの警告表示です。もし、電圧がもとに戻れば電池マーク点滅は消えて正常に機能します。しかし、点滅状態が頻繁に起こる場合は電池を交換してください。
電池マークの点灯は、その点滅が24時間以上続いた状態で、電池容量が使用範囲以下まで少なくなっていることを表わします。
この場合は、速やかに電池を交換してください。

Q５：画像が100枚に満たないのにFULLになりました。

A５：撮影画像はJPG圧縮したファイルで保存していますので、被写体や撮影環境下によって圧縮後のファイルサイズが異なります。
そのため、メモリーした画像によっては最大100枚に満たない場合があります。
この場合、撮影の枚数カウンターもそれに応じたカウントとなります。

Q６：ビジュアルDBモードの画像表示が粗いときがありますが。

A６：撮影画像はJPG圧縮されたかたちでメモリーされており、画像を表示するときはその圧縮データを伸長します。伸長時間は１～４秒間です。伸長途中の画像は通常画像より粗い画像に見えます。
画像の早送り戻しなどのときには伸長途中の画像表示となります。

Q７：万一、正常に動作しなくなったら、まずどうすればいいですか？

A７：万一、何かの機能が正常に動作しなくなったら、電池を一度取り出して、再度入れ直してください。この操作により、画像メモリーを除くすべての機能をリセットします。

製品仕様

■時計機能

水晶発振周波数：32,768Hz
精　　度：平均月差±15秒以内
基本機能：年・月・日・曜日・時・分・秒・午前(A)／午後(P)／24時間制表示、
フルオートカレンダー(2000～2039年)
アラーム機能：セット単位＝1分　電子音＝20秒間
時報機能：毎正時に2回電子音で報時
ストップウオッチ機能：計測単位＝1/10秒
計測範囲＝23時間59分59秒9（24時間計）
通常計測、積算計測、スプリット計測、1・2着同時計測
その他：自動復帰機能、デモアラーム、12/24時間制表示切替

■カメラ機能

記録画像形式：JPEG
記録画素数：QCIF（176×144pixels）
記録媒体：内蔵メモリー（1MB）
記録コマ数：最大100枚（JPEG圧縮による）
撮像素子：1/14型カラーCMOSセンサー
（有効画素数＝25,344画素、総画素数＝28,000画素）
レンズ：F2.8固定、f＝1.1mm
撮影可能距離：30cm～∞
測光方式：全画面平均方式
露出制御方式：ALC（光量制御）方式
シャッター形式：電子シャッター
シャッタースピード：1/5.5～1/1660秒自動
モニター：6,240ドット（78×80）、カラー4,096色
表示サイズ＝20×20mm
撮影タイマー：2秒／5秒／10秒
撮影モード：通常撮影、撮影シーン切替（OUTDOOR、INDOOR、DUSK）、
ブライトネス調整、デジタル2倍ズーム
赤外線通信機能：パソコンとの画像データ送受信、時計同士の画像データ送受信
データ転送速度＝最大115,200bps

■共通機能

主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子、ワンチップCMOS-LSI
使用温度範囲：0℃～40℃
使用電池：CR-2032（電池別途販売）
電池寿命：1日あたり、基本時計表示で電子音20秒間使用した場合
約6カ月
1日あたり、上記条件に加え、撮影を60秒間行なった場合
約4カ月
ただし、撮影機能や通信機能の使用頻度により短くなることがあります。

電源について

■ 最初の電池

- 工場出荷時にモニター用電池が組み込まれておりますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
  ※モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
  ※電池交換の場合は保証期間内でも有料となります。

■ 電池の消耗

電池が消耗してくると、電池マークが点滅または点灯して一部の機能が使用できなくなりますので、速やかに新しい電池と交換してください。



電池マーク

- まず、電池マークが点滅し、次の機能が使用できなくなります。
  ① 撮影モードへの切り替え
  ② ビジュアルDBモードでのメモ入力や画像データの削除
  ③ 通信機能
- 電池マーク点滅が24時間以上経過した場合は電池マークが点灯し、上記に加えて次の機能が使用できなくなります。
  ④ アラーム、時報の報音
- 電池の消耗により使用できない場合は、「LOW BATTERY」表示となります。

例）カメラモード



本機を使用したこと、および故障・修理・電池交換などによりデータが消えたり、変化したことで生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

■ 電池交換のご注意

- 電池はリチウム電池〈CR-2032〉1個を使用します。
- 電池はできるだけ「カシオ指定の電池」または同等品をご使用ください。
- 電池を交換するときは、ケースに付いた水や汗がケース内に入らないようにご注意ください。ケースの中が濡れたり湿気を帯びたときは、よく乾かしてから電池を入れてください。
- 古い電池を交換せずに入れたままにしておくと、故障の原因になります。
- 使用済み電池は不燃ゴミとして廃棄してください。(電池を分別廃棄しているところは、それに基づいて廃棄してください)
- お客様の電池交換が正常に行なわれなかった場合の防水不良につきましては、有償修理となります。十分にご注意ください。

⚠ 警告

- 本機で使用しているボタン電池を取りはずした場合は、誤ってボタン電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子様にご注意ください。
- 電池は小さなお子様の手の届かないところへ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。
- 電池は充電や分解、ショートする恐れのあることはしないでください。また、加熱したり火の中へ投入しないでください。

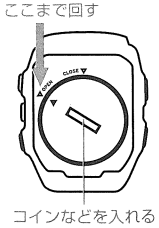
⚠ 注意

- 付属の電池は充電式ではありません。絶対に充電しないでください。
- 電池の極性（⊕と⊖の向き）に注意して正しく入れてください。
- 本機で指定されている電池以外は使用しないでください。
- 電池が液漏れを起こした場合は、液に触れずに、すぐにふきとってください。

■電池交換のしかた

1. 電池ブタをはずす

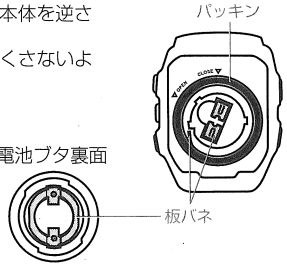
時計本体裏面にある電池ブタのみぞにコインなどを入れて矢印の位置（OPEN）まで回します。



コインなどで回すときは、無理に力を入れないでください。電池ブタがこわれることがあります。

2. 古い電池を取り出す

※電池が取り出しにくいときは、時計本体を逆さまにすると電池が出てきます。
※電池を取り出すときにパッキンをなくさないようにしてください。

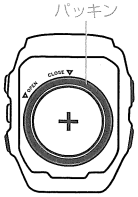


電池を取り出す際に板バネに触れますと、ケガや故障の原因になりますのでご注意ください。

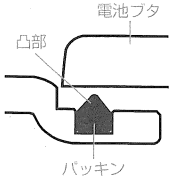
3. 新しい電池を入れる

新しい電池の表裏を乾いた布でふいてから、プラス（＋）を上にして入れます。

※電池の表や裏をピンセットなどでつままないでください。電池がショートして危険です。
※パッキンが入っていることを確認してください。



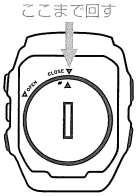
パッキンの汚れやゴミを取り除き、上下を確認して凸部が電池ブタ側になるように入れてください。



4. 電池ブタを閉める

電池ブタを乗せ、みぞにコインなどを入れ、少し押しながら矢印の位置（CLOSE）まで回します。

※電池交換後、電池ブタを閉めてから表示が出るまで、約10秒かかります。



●電池交換後は

電池交換により、時刻・カレンダー、アラームセット時刻、タイマーセット時間はクリアーされます。
電池交換後は、時刻・カレンダーおよび必要なセットを行なってください。
※撮影した画像データは残ります。

ご使用上の注意

防水性

● 表面または裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されているもの。

	BAR無し	5BAR	10BAR	20BAR
洗顔、雨	○	○	○	○
水仕事、水泳	×	○	○	○
ウインドサーフィン	×	×	○	○
スキンダイビング(素潜り)	×	×	○	○

※「BAR」は気圧の意味で、防水性の高さを表わします。
※専門的な潜水＝スキューバダイビング（アクアラング）でのご使用はお避けください。

● 表面または裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されていないもの。防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。
● 防水構造の機種でも、水中でのボタン操作は行なわないでください。
● 防水構造の機種はシャワー程度の温水では使用できますが、入浴等で長時間使用することはお避けください。
● 海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れをふきとってください。
● 防水性を保つために定期的（２～３年を目安に）なパッキン交換をおすすめします。
● 電池交換の際、防水検査を行ないますので、必ずお買い上げの店あるいは最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにお申し付けください。（特殊な治具を必要とします）
● 防水時計の一部にデザイン上皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態で、水仕事・水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。

バンド

● バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。
● 樹脂バンドも皮バンド同様、日々の使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。バンドにヒビなどの異常がある場合は、必ず新しいバンドと交換してください。そのときは、お買い上げ店または最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにバンド交換をお申し付けください。保証期間内であっても実費にて申し受けます。
● 樹脂バンドの表面にシミ状の模様が発生することがありますが、人体および衣服への影響はありません。また、布等で簡単にふきとることができます。

温度

● 自動車のダッシュボード等の高温になる所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止まったりすることがあります。
● ＋60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障をきたすことがありますのでご注意ください。

ショック

● 通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけたりすると、故障の原因となります。

磁気

● 時計機能には影響ありません。
● 静電気または磁性物質などの接触により、撮影された内容が消えることがあります。

薬品類

● 水銀や化学薬品（シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類）が付着すると、ケース、バンドなどに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。

保管

長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などをふきとり、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

液晶パネルの交換について

液晶パネルは約７年を過ぎますと、数字や文字が読みにくくなる場合があります。そのときはお買い上げ店またはカシオテクノ・サービスステーションに交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。

お手入れについて

お手入れのしかた

● 時計も衣服同様、直接身につけるものです。本体ケースやバンドの汚れ、汗・水分などは吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にご使用ください。
● 金属バンドは、時々、部分洗いすることをおすすめします。部分洗いの際、時計本体に水がかからないようにしてください。非防水時計の場合は故障の原因となり、また防水時計でも石けん水により防水性が損われることがあります。
● レンズ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、レンズ面には触れないようにしてください。
また、レンズ部の汚れは、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽くふいてください。

お手入れを怠ると

● 「サビ」
  • ステンレススチールはサビにくい性質ですが、汚れによりサビが発生します。
  ※ 汚れにより酸素が断たれると、表面の酸化被膜が維持できなくなり、サビが発生します。
  • 表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやサビがしみ出して、衣類の袖を汚すことがあります。
● 「劣化」
  • 樹脂バンドは汗などの水分で濡れたままにしておいたり、湿気の多い場所に保管すると、劣化が早くなり、切れたり、折れたりすることがあります。
● 「かぶれ」
  • 皮膚の弱い方やアレルギー体質の方は、かぶれたりすることがあります。特に、皮バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをするか、金属バンドのご使用をおすすめします。
  • 万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。

• 故障、修理、電池消耗等に起因するデータの消失により生じた損害および逸失利益等につきましては、当社では一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
特に、重要なデータは複数の記憶装置に保存することをおすすめします。
• 本書および本機使用により生じた損害および逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。